地域発展支える酒田市新田産業奨励賞

新田嘉一氏（平田牧場会長）の信念に基づき創設

先進的取り組みたたえる

平田牧場会長の新田嘉一氏（77）＝酒田市楢橋＝からの寄付金をもとに基金を造成し、先進的な取り組みで地域の産業振興に貢献している市内の個人や企業・団体などに、奨励金を交付し表彰する「酒田市新田産業奨励賞」の本年度授賞式が、昨年11月に同市のガーデンパレスみずほで行われ、1企業1団体が授賞した。通算第21回（新酒田市では第6回）で受賞者数は4個人57企業・団体の累計61に達した。地域で頑張り、他の模範となる個人や企業などに光を当て、その功績をたたえるとともに一層の奮起を促してきた新田産業奨励賞の歴史を振り返る。

累計4個人57企業・団体に

新田産業奨励賞は、新田氏が「農業の振興と商工業の発展がなければこの地域の発展はない」という自身の信念に基づき、地場で産業振興に貢献している人や企業・団体のために役立ててほしいとの願いから1987（昭和62）年、平田牧場の本社所在地である酒田市に、1000万円を寄付したのがきっかけ。

新田氏は91（平成3）年まで毎年1000万円を寄付。その後も96（平成8）年からの3年間、2005（平成17）年と1000万円余りを寄付し続け、07（平成19）年の1050万円寄付により、ついに累計1億円を突破した。

酒田市では、それらを積み立てて新田産業振興基金を造成。その果実で1990（平成2）年から、新田産業奨励賞として市内の個人、企業・団体に奨励金を交付する事業を継続している。新田氏が居を構える旧平田町にも同様の制度があり、2005（平成17）年11月の市町合併を契機に06（平成18）年から基金を一本化。商工会議所や商工会、農協、県漁協などから推薦を受けて審査し、表彰している。

栄えある第1回の受賞者は、旧酒田市（1990年）が、コーユ株式会社（酒田商工会議所推薦）と、「本楢むきむき会」（酒田市農協＝当時＝推薦）。旧平田町（1991年）は、平田町和牛改良組合（庄内みどり農協推薦）と中瀬義秋氏（平田商工会＝当時＝推薦）だった。

その後、合併年の2005年までに、旧酒田市では1個人24企業・団体、旧平田町では2個人16企業・団体が受賞。合併後は本年度までに14企業・団体が表彰された。

授賞式では例年、新田氏が祝辞。その思いを込めて「地域産業が頑張らないと駄目。皆さんに元気を出してもらって、この地域を発展させていこう」（07年）、「自分から行動を起こすのが私のモットー。みんなでこの酒田市を良くしていこう」（08年）、「私のささやかな気持ちをこのような形で表していただき、ありがたい」（09年）と述べ、受賞者に祝意を示すとともに励ましてきた。

祝辞を述べる新田氏＝2010年11月22日

本年度は1企業1団体

受賞励みにチャレンジ誓う

通算で60、61番目となった本年度の受賞者は、自然環境に配慮した企業経営を行うとともに「電子制御ディーゼルエンジン始動試験機」の開発・販売をテーマに経営革新の承認を県から受けるなど、ものづくりに積極的に取り組んでいる「山形オートリサイクルセンター」（広栄町二丁目、伊藤雄一郎社長）と、平田地域の伝統野菜・赤ネギの栽培マニュアルを作成して生育期間を短縮させたほか、共同選別による品質の均一化を図って販路拡大を進めている「庄内みどり農協酒田流通畑作部会平田赤ねぎ専門部」（後藤博部長、10戸）。

この1企業1団体を祝う本年度の授賞式は昨年11月22日、ガーデンパレスみずほで開催され例年通り、関係団体のトップや市議、市幹部職員ら約80人が出席した。阿部寿一市長が「受賞を契機にさらなる飛躍の励みにしてもらうとともに、なお一層の発展・活躍を祈る」と式辞。各受賞者に表彰状、奨励金の目録、記念の盾を贈った。

続いて新田氏が「企業が一人でも多く雇用し、その社員が商店からものを買うことでこの地域の繁盛につながることを願い、寄付した。基金は1億30万円まで積み上がり、来年度も（奨励金を）授与できると聞き、うれしい」と述べた。

富樫幸宏市議会議長、昨年11月1日付で就任した佐藤淳司酒田商工会議所会頭が祝辞。

受賞者を代表して伊藤社長が「環境問題がクローズアップされる前に『これからは環境の時代だぞ』と叱咤激励してくれた父親に、この賞を預けたい。これからも低炭素社会に向け、飽くなきチャレンジを続ける」と謝辞を述べた。

式典終了後、受賞者を中心に新田氏、阿部市長ら関係者による記念撮影を行い、晴れの日を記録した。

この日は、授賞式を記念して慶應義塾大経済学部の金子勝教授が「食とエネルギーによる不況脱出」と題して記念講演。「経済再生には経済の地方分散化が必要。地産地消で基本となる経済力を高め、産地が形成されたら『地産外商』に向かうべき」「今も世界経済危機は続いている。戦争をしないで大恐慌を防ぐには世界中で一斉に同じ方向に動くための大義が必要で、それは地球温暖化阻止」などと、予定の時間を1時間近くもオーバーして熱弁を振るった。

受賞者を挟んで新田氏（前列右端）ら関係者が記念撮影した＝2010年11月22日

受賞者を代表して伊藤社長が謝辞を述べた＝2010年11月22日

元日号5版
1…新田産業奨励賞　2…リサイクル
3…異業種からの農業参入
4 5…「庄外人」たちが語る
6…ワイド「魚市場旬だより」
7…大山特集

2011 HIRABOKU NEW YEAR